

日の暮れるのが早くなり、秋の訪れを感じます。
“食欲の秋” “スポーツの秋” “読書の秋” “芸術の秋” 等々秋にはいろいろな形容がされますが、みなさんは何派でしょうか？

今月と来月は今年で満90歳になられた児童文化の研究者で絵本作家、児童文学者の【かこさとし】さんについてお話をします。



かこさとしさんと言えば、「からすのパンやさん」を代表する「かこさとしおはなしのほん」シリーズ、「うつくしい絵」、「だるまちゃん」シリーズ、「とこちゃんはどこ」、「かこさとしからだの本」シリーズ、「伝承遊び考」など600点余におよぶ作品があり、絵本作家としては日本一多いと言われ、今も現役で絵本を描き続けておられます。

『だるまちゃんとてんぐちゃん』の初版は1967年11月、ほぼ半世紀にわたってたくさんのお子たちに読み継がれています。

てんぐちゃんの持っているものが何でも欲しいだるまちゃん、おおきなだるまどんは、いろいろなものを出してくれます。うちわやぼうし、はきもの、はなと、ひとつのものに対して何十種類ものうちわ、ぼうし、はきもの、はなを出してくれました。

加古里子（かこさとし）さんの里子は番号でご本名は中島哲さん。何十年も昔、名前にもルビがふられていない時、さとこさん、女性だと思っていました。ごめんなさい、加古さん。

また『からすのパンやさん』では、200羽ものカラスの1羽たりとも同じカラスはいません。これは、かこさんがひとつのものにも、いろいろなものがあるのだということをお子たちに知ってほしいと考えたから、また、非常に細かなところまでしっかりと見て理解する子どもの力、興味、関心の深さを信頼しているからなのだそうです。



* 次回はかこさんが親に望むことのお話です。